



自転車安全対策強化日(SBデー)では、自転車の通行者を対象に反射材の着用をチェック。未着用の通行者に対しては、署員が取り付けを行いました



伊賀警察署交通課 富井和哉 警部

交通事故死者は減少傾向に 高齢者が半数以上を占める

京都や奈良などに隣接し、古くから交通の要所として栄えてきた伊賀市。東西には名阪国道が、南北には国道368号と国道422号が地域を貫いています。特に、天理IC(奈良県)と亀山IC(三重県)をつなぐ名阪国道は大型トラックが頻繁に通り、また市内にはツーリングスポットとして人気の高い青山高原があることから、県外から行き来する車やバイクも多いのが特徴です。

「人身事故の6割は、追突や出会い頭衝突など。集中力や注意力が低下した漫然運転であったり、カーナ

ビの画面を注視していたりと、前方不注意が原因に挙げられます」と、伊賀警察署交通課の富井和哉警部は話します。令和元年交通安全白書(内閣府)によると、国内における平成30年の交通事故発生件数は43万6011件。死者数は3532人と、前年に比べ減少しているものの、そのうち高齢者の割合は半数以上を占めています。昨年、伊賀管内では6件の交通死亡事故が発生。11月には2件連続で、市街地の「銀座通り」付近を横断中の歩行者が亡くなりました。

事故を受け伊賀警察署では12月上旬に緊急の街頭啓発活動を実施し、市内の商業施設出入口で、チラシ

巻頭特集 伊賀警察署に聞く、冬の交通安全対策

一人ひとりの心がけが交通事故を減らす

日没が早い冬期は、積雪や路面凍結など場所や時間によっても道路の状況は大きく変化します。ちょっとした不注意や焦りは誰の身にも起こるもの。交通事故を防ぐためには、一人ひとりの意識が大切です。

道路環境が変化する冬期は 時間と心に余裕を持つ

や反射材を配布しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により従来の活動手法を変更。手渡しをやめ、卓上に並べられた啓発物品を各々が選んでいくといった非接触型で実施しました。

天気や時間帯によって道路環境が大きく変化する冬期。三重県道路交通法では積雪・凍結時に運転する場合、タイヤチェーンやスノーチェーンなどのすべり止めの措置を講じることで定められています。「フロントガラスが凍結していて出発が遅れ、運



ご当地デザインの
忍者ミーボくん

伊賀警察署
伊賀市
四十九町1929-1
☎0595-21-0110



新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、昨年末に実施された緊急の啓発活動。反射材などの啓発物品を卓上に設置し人との距離を保つなどの対策をとって、交通安全を訴えました